市民と育てる「多摩市立中央図書館」サポートプロジェクト 2024
―開館 1 周年記念を含む市民参加イベントの開催―

深水　浩司　常勤特任教授
（教職総合支援センター（多摩校））

多摩市では、2023 年 7 月 1 日に「多摩市立中央図書館」を開館した。2023 年度は、開館前から申請代表者と図書館サークル Olive に対して多摩市立図書館から、開館準備のお手伝いや、開館後のイベント、図書館の使い方のヒントなどを頂けないかと要請があり、地域連携プロジェクトの一つとして可能な限りサポートを実施した。開館準備のお手伝いでは、大妻多摩中学高等学校の司書教諭や生徒たちの協力もあった。

今年度のプロジェクトは、開館 1 年を迎えた図書館の 1 周年記念イベントや、恒例になっている図書館カフェ（高齢者対象）、ビブリオバトル等を通じて、市民の方々と図書館を、大学や教員、学生の力で結びつけるベント等を企画し実施した。以下に各イベントの報告を述べる。


学生と高齢者が共に本を探す

最初のイベントは図書館カフェである。多摩市立図書館での告知正式タイトルは、「地域の大学生とのおしゃべり広場～シニアのためのブックセレクト＆トーク～」。高齢者に接するための知識として、事前研修（9/15）を実施し（多摩市内で高齢者医療を担当している医師が講師）、その後、1 日目（9/22）と 2 日目（10/6）を実施した。地域の大学生と、本をテーマにおしゃべりしながら、「自分だけの 1 冊」を見つけだし（1 日目）、2 週間後に感想や知見を語り合うイベントとした。学生延べ 23 名と参加者 14 名、研修担当医師 1 名、その他図書館スタッフ延べ 9 名の参加となり、開催後のアンケートでは、「参加者 1 名に 2 名程度の学生のサポートが良かった」や、「来年も実施してほしい」などの感想が寄せられた。

次のイベントであるビブリオバトル（12/8）では、図書館サークル Olive の学生 4 名が企画・運営を実施し、図書館スタッフ 4 名の協力のもと、午前（高校生まで）発表者 6 名（観戦者 17 名）、午後（一般）発表者 4 名（観戦者 17 名）で実施された。ビブリオバトルとは、「発表者（バトラー）が持ってきた本の魅力を制限時間内で語り、その中で参加者全員が一番読みたいと思った本（チャンプ本）を選ぶという、「人を通して本を知る、本を通して人を知る」コミュニケーションゲーム（多摩市立図書館 Web ページより https://www.library.tama.tokyo.jp/info?3&pid=1429 2025 年 4 月 10 日確認）」であり、本学図書館サークル Olive が毎年主催しているイベントでもある。

事後アンケートでは、非常に満足が 44%、満足が 37%であり、参加しやすいイベントで、来年の実施を求める声も多かった。



Olive の司会でバトラーが発表

最後のイベントである市民協働製本イベント（市立図書館告知の正式タイトルは「多摩市立図書館製本体験～自分で書いて作った本を図書館に！！～」は、12/15 に、申請代表者指導のもと、学生 3 名によるサポートも加わり、参加者（和装本作成者）10 名による製本体験が実施された（図書館スタッフは 4 名）。このイベントは、多摩市立図書館が市民に呼び掛け、市民が主体的に企画を作り運営をする複数のイベントの一つであり、本年度から実施されたものである。本の大切さを、自ら製本（今回は和装本）を通じて学びつつ、自分の原稿をもとに作成された本は、多摩市立図書館の所蔵となり貸出もできるようにした。主催者である持田哲也氏から申請代表者に相談があり、企画構築と共に実施も申請代表者と学生、複数の市民とで担当した。イベントでは、NHK 首都圏局の取材を開始から終了に至るまで受け、同日 19 時前と 21 時前の首都圏ニュースで放送された（4/10 時点でも、https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20241215/1000112129.html で視聴可能）。事後アンケートでは、非常に満足が 80%、満足が 20%で、時間はやや長かったものの、和本の歴史や実際の和装本が作成できたことに満足しているようだった。



申請代表者が製本課程を説明（NHK 首都圏局取材中）

大学のリソースを活用した 3 つのイベント実施において、大学と市立図書館、市民の方々との連携により、利用者がより図書館を身近に感じる入り口となり、新しい図書館スタイルを理解し利用するきっかけになっていることを感じることができた。